

**平成25年度
新宿駅周辺防災対策協議会活動
報 告 書**

平成26年3月

新宿駅周辺防災対策協議会

平成 25 年度新宿駅周辺防災対策協議会活動 報告書

目 次

第 1 章	はじめに	1
第 2 章	セミナー・講習会等の概要	2
2.1	教育訓練プログラムの構成	2
2.2	スケジュール	3
第 3 章	平成 25 年度新宿駅周辺防災対策協議会総会	4
第 4 章	セミナー・講習会、防災ウィーク	7
4.1	第 1 回セミナーの概要	7
4.2	第 2 回セミナーの概要	9
4.3	第 3 回セミナーの概要	11
4.4	災害医療講習会の概要	12
4.5	応急救護講習会の概要	15
4.6	新宿防災ウィーク 2013 の概要	17
4.8	新宿駅周辺防災対策協議会訓練	19
4.9	第 4 回セミナーの概要	22
4.10	第 5 回セミナーの概要	28
第 5 章	おわりに	30

第1章 はじめに

新宿駅周辺などの中心市街地では、首都直下地震などの大地震発生時には東日本大震災を上回る被害が想定されている。そのような事態に、地域の被害を最小限に留め速やかに復旧へ向かわすためには、個々の事業所やビルにおける自助と地域における共助が大変重要であり、さらにそれらの取り組みを支援する仕組みづくりが欠かせない。

新宿駅周辺防災対策協議会では、東日本大震災以降、こうした地域連携の仕組み（新宿モデル）の構築に向け、これまでに実施してきた訓練や検討の成果を踏まえた主要検討事項（①情報収集伝達、②避難・退避誘導支援、③医療連携、④建物安全確認）を掲げて地域として取り組んできた。平成 24 年度からは、地域の事業所等の勤務者や災害対応従事者が主体となり、防災意識とともに知識と経験を高めながら、計画的に検討課題へ取り組んでいくために、災害対応の基礎的知識を身につけるセミナー、実践的な技能を習得する講習会、さらにその成果の実践および検証の場として訓練で構成する、教育訓練プログラムを実施している。

本報告書では、平成 25 年度に新宿駅周辺防災対策協議会が実施した、新宿駅周辺防災対策協議会総会およびセミナー・講習会・防災イベントについて、各行事の概要と、参加者に対するアンケート調査結果を報告する。セミナー・講習会等に関わる各種資料は「新宿駅周辺防災まちづくり事業及び新宿駅周辺防災対策協議会西口地域訓練業務委託報告書」（工学院大学、2014 年 3 月）の資料編にまとめている。なお、平成 25 年度の新宿駅周辺防災対策協議会の活動全般の概要については文献[1]または[2]、平成 25 年度の新宿駅西口地域地震防災訓練の報告については文献[3]を参照されたい。

第2章 セミナー・講習会等の概要

2.1 教育訓練プログラムの構成

図1に示すロードマップおよびそれに基づく教育訓練プログラムは、地域事業者を中心とする協議会活動参加者の要望・意見・感想を参考につくられている。このプログラムには、新宿駅周辺地域の特徴と東日本大震災の経験を踏まえた「新宿モデル」(前述)の構築に向け、地域が取り組むべき優先課題として、「災害医療と応急救護」、「建物被害確認と使用性判定」、「情報共有と伝達」および「災害対応体制」が位置づけられている。

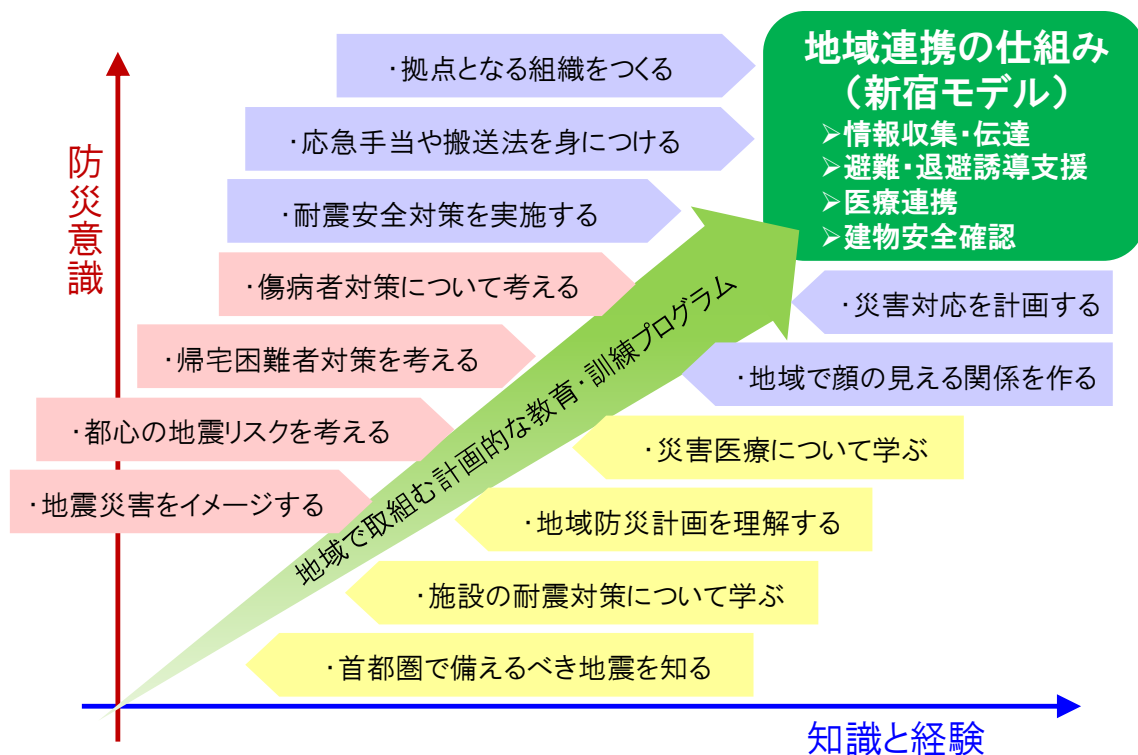


図1 地域連携のしくみづくりのロードマップ

2.2 スケジュール

表 1 が、2013 年度に実施したセミナー・講習会・訓練関係のスケジュールである。2013 年 5 月に新宿駅周辺防災対策協議会の総会を開催して 1 年間の教育訓練計画を決定し、6 月より会員事業所等を対象とするセミナー、応急救護講習会、および地元の医師会と共催して医療従事者を対象とするトリアージ研修等を実施した。そして、その成果の実践と検証の場として、11 月には新宿駅の東西地域に分かれて総合防災訓練を開催した。また、訓練実施日を挟む 1 週間を新宿防災ウィークとして、会員事業所や一般市民を対象に各種防災関連のイベントを行った。

表 1 2013年度のセミナー・講習会・訓練関係のスケジュール
(本報告書の対象を網掛けで示す)

2013	5/22 (水) 総会
	6/26 (水) 第 1 回セミナー
	7/24 (水) 第 2 回セミナー
	9/4 (水) 第 3 回セミナー
	9/19 (木) 災害医療講習会※ (医療従事者対象)
	9/27 (金) 訓練概要説明会
	10/9 (水) 応急救護講習会
	10/30 (水) 訓練参加者説明会
	11/6 (水) ～10 (日) 新宿防災ウィーク
	11/7 (木) 総合防災訓練
2014	1/16 (木) 第 4 回セミナー
	2/26 (水) 第 5 回セミナー

※新宿区医師会との共催で実施

第3章 平成 25 年度新宿駅周辺防災対策協議会総会

平成 25 年度の新宿駅周辺防災対策協議会総会では、当該年度の協議会活動に係る議題の審議、都市再生安全確保計画に関する報告、平成 24 年度の協議会活動報告、および平成 25 年度のセミナー・講習会・訓練について説明し、その後に基調講演と意見交換を行った。以下に、総会の実施概要、総会プログラム（図 2）、実施状況（図 3）およびアンケート調査結果概要（図 4）を示す。

- ・ 名称：平成 25 年度新宿駅周辺防災対策協議会総会
- ・ 日時：2013 年 5 月 22 日（水）13:00～16:10
- ・ 会場：新宿文化センター 小ホール
- ・ 出席者：115 名
- ・ 議事概要：

（1）平成 25 年度の協議会について

以下の 5 つの議題に関する審議および報告を行った。

議題 1 平成 25 年度新宿駅周辺防災対策協議会座長として田中氏を選任。

議題 2 副座長は東西の地域部会長を選任。

議題 3 平成 25 年度新宿駅周辺防災対策協議会構成団体名簿の承認。

議題 4 「第 29 回全国トイレシンポジウム」の共催についての承認。

議題 5 「新宿駅周辺防災対策協議会」の東京防災隣組（東京都）認定報告。

（2）都市再生安全確保計画について

都市再生安全確保計画制度の概要を説明した後、新宿駅周辺地域での進捗状況について報告があった。西口地域については、平成 24 年度に都市再生安全確保計画基礎調査を終え、平成 25 年度より計画策定を行い、東口地域については平成 25 年度に基礎調査を実施する。

（3）平成 24 年度の協議会活動報告

平成 24 年度に、東西それぞれの地域で行った地震防災訓練の内容を中心に報告があった。東口地域では、現地本部の立ち上げと情報共有訓練、さらに東口現地本部から応急救護所へのビニールシートによる傷病者搬送等を実施した。一方で、西口地域では、高層ビル内等での自助の対策をしっかりと行い、共助へとつなげることをテーマとし、傷病者対応訓練、建物被害対応訓練、医療救護訓練、情報共有訓練を実施した。

（4）平成 25 年度のセミナー・講習会・訓練

自助から共助までの災害対応力を高めるため、平成 25 年度に新宿駅周辺防災対策協議会で行うセミナー・講習会等の教育訓練プログラムの概要と実施スケジュールについて説明を行った。

（5）講演「中心市街地における効果的な災害対応とそのための組織づくり」

林 春男氏（京都大学防災研究所教授）より、個々の組織の事業継続能力（レジリエンス）の保持と、地域全体で協力した災害に負けない社会づくりテーマとした基調講演が行われた。

（6）意見交換

講演者および報告者をパネラーとして、会場参加者との意見交換を行った。

平成 25 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 総会

平成 25 年 5 月 22 日（水） 新宿文化センター 小ホール

プログラム

開 場	12:30		
開 会	13:00		
開会挨拶	13:00	新宿区長	中山 弘子
総 会	13:10	(1) 平成 25 年度の協議会について 新宿区区长室危機管理課長	<資料1~3> 松田 浩一
	13:30	(2) 都市再生安全確保計画について 工学院大学建築学部 准教授	<資料4> 村上 正浩
	13:40	(3) 平成 24 年度の協議会活動報告 東口地域部会長(新宿大通商店街振興組合理事) 西口地域部会長(工学院大学建築学部 教授)	<資料5・資料6> 安藤 佳幸 久田 嘉章
	13:50	(4) 平成 25 年度のセミナー・講習会・訓練 西口地域部会(鯉沢工学研究所代表 工学院大学非常勤講師)	<資料7> 鯉 沢 曜
	休 憩	14:00~14:10 (10 分)	
講 演	「中心市街地における効果的な災害対応と そのための仕組みづくり」		
	14:10	京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授 林 春 男	
休 憩	15:10~15:15 (5 分)		
意見交換	15:15		
閉会挨拶	16:00	新宿駅周辺防災対策協議会 座長 日本赤十字社東京都支部 事業部 救護課長	田中 真人
閉 会	16:10		

図 2 平成25年度新宿駅周辺防災対策協議会総会プログラム



図 3 平成25年度新宿駅周辺防災対策協議会総会の実施状況（左：総会、右：講演）

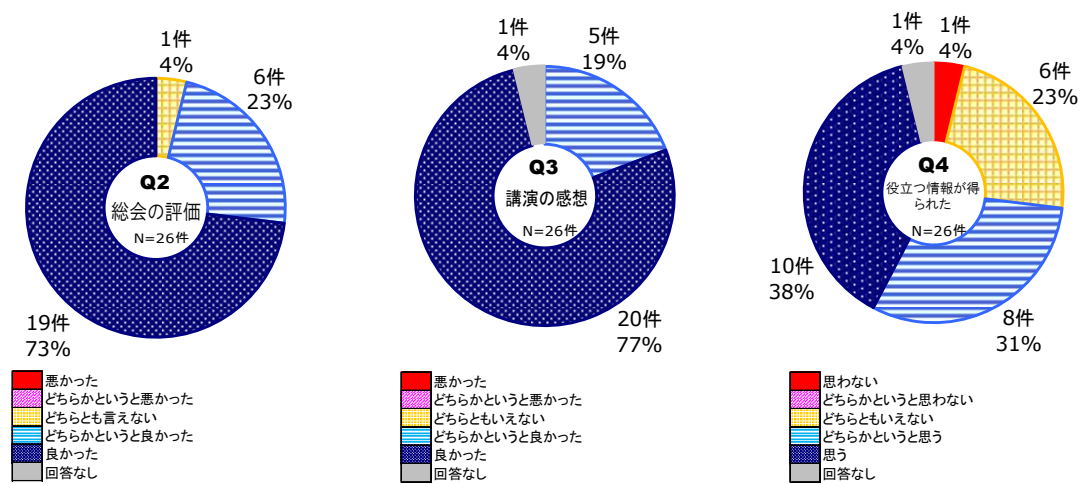


図 4 総会アンケート調査結果概要

第4章 セミナー・講習会、防災ウィーク

4.1 第1回セミナーの概要

第1回セミナーでは、在日米陸軍消防本部に在籍する災害対応の専門家を講師として、ICS（インシデント・コマンド・システム）を活用した組織づくりの有効性と自衛消防組織への適用について講演を行った。以下に実施概要および実施状況（図5）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の概要を、表2、表3および図6に示す。

- ・ 題目：災害対応を効果的に実践するための戦術・トレーニング
- ・ 目的：ICSを活用した組織づくりの有効性と自衛消防組織への適用について学ぶ。
- ・ 日時：2013年6月26日（水）13:30～15:30
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス
- ・ 講師：在日米陸軍消防本部次長 熊丸 由布治 氏
- ・ 出席者：53名



図5 第1回セミナーの実施状況

表2 第1回セミナーアンケート調査結果概要(1)
(今後の消防計画や自衛消防隊の組織づくり・管理に役立つ情報)

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 事前計画、意志系統明確、現場の権限を与える事の大切さ・ チームビルディングの構成方法・ ICSの組織活用・ 情報の重要性・記録の重要性・現場と本部の連携。・ 米国において、様々なことが規格・標準化され、それを一般人もライセンスを取得できるようになっているということ。・ アメリカ式のやり方、日本の良さをふまえた形での災害対応・ チームビルディング・ ICSの考え方の中で非現場の任務として、発生した問題を解決していく任務の重要性が確認出来た。正確な情報、それに基づく早い意志決定、プラス安全の確認。・ 標準化されたルール必要性を強く感じた。・ 計画策定・ ICS各種様式を参考に当ビルに合った様式を作成してみたい。・ 拡張性、書面・ 標準化について災害対応の考え方。・ 全ての災害に対応出来る組織作りと標準化。 |
|--|

表 3 第1回セミナーアンケート調査結果概要(2)

(今後取り組まなければならない、或いは取組みたいと思われる事項(複数回答可))

既存の災害対応マニュアルの検証・改善	18 (47%)
災害対応訓練の内容の見直し	15 (39%)
標準化された教育・訓練プログラムの導入	13 (34%)
I C S (インシデント・コマンド・システム) の導入	11 (29%)
地域内(異なる組織間)における災害対応の連携	10 (26%)
自衛消防隊の組織編成の検証・改善	9 (24%)
事業継続計画(B C P)・事業継続マネジメント(B C M)の検証・改善	9 (24%)
事前計画(L E R P)の作成	4 (11%)
各種報告様式の見直し・整備	4 (11%)
その他	0

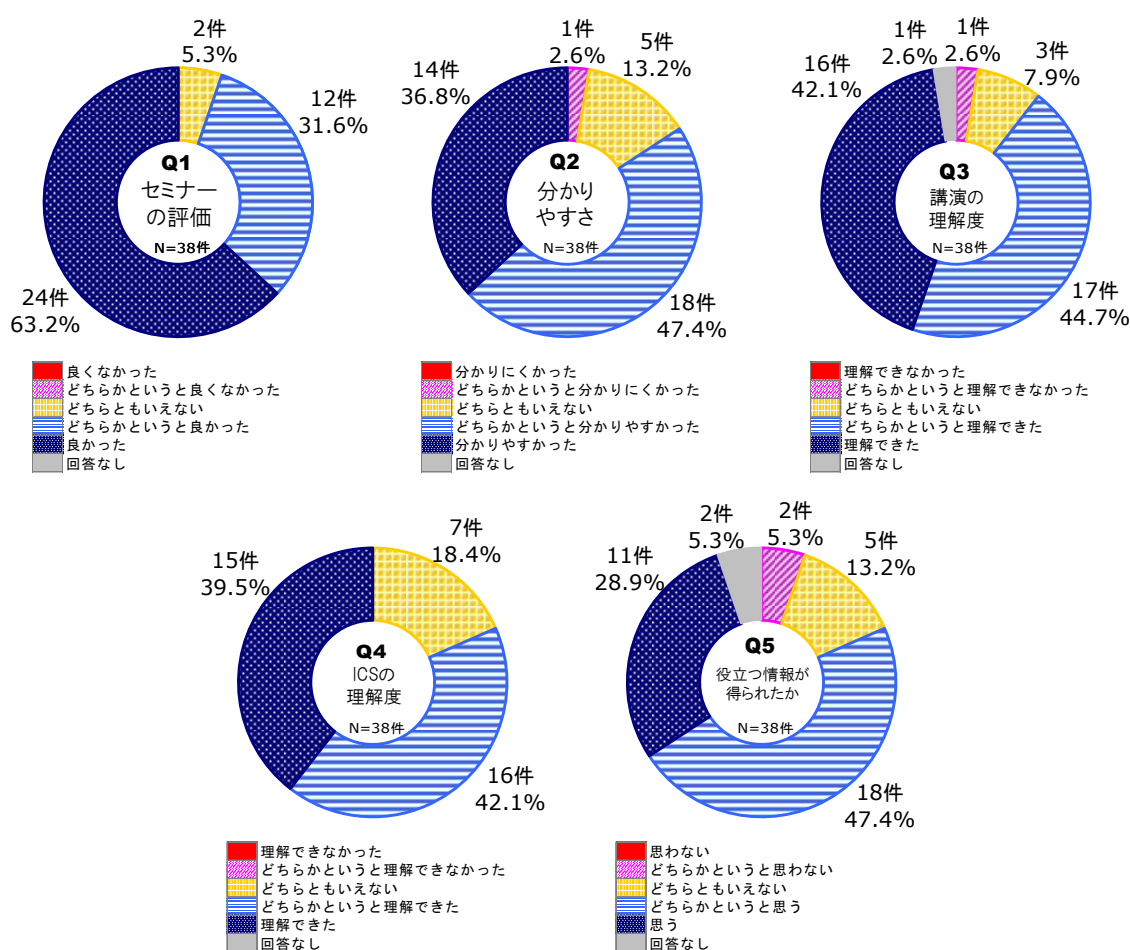


図 6 第1回セミナーアンケート調査結果概要

4.2 第2回セミナーの概要

第2回セミナーでは、新宿消防署長と新宿消防署予防課長を講師として、高層ビル等の防火・防災管理体制の強化を目的とする改正消防法（2014年4月1日施行）の内容と自衛消防隊の組織づくり、および防災センターを核とする自衛消防隊による建物の実践的な防火・防災の対策例について、講演を行った。以下に実施概要および実施状況（図7）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の概要を、表4、表5および図8に示す。

- ・ 題目：消防法の改正と自衛消防隊の組織づくり
- ・ 目的：改正消防法の内容および自衛消防隊の組織づくりに関する具体例を学ぶ。
- ・ 日時：2013年7月24日（水）13:30～15:30
- ・ 会場：新宿区角筈地域センター
- ・ 講師：新宿消防署長 松村保雄 氏、新宿消防署予防課長 平本隆司 氏
- ・ 出席者：62名



図7 第2回セミナーの実施状況

表4 第2回セミナーアンケート調査結果概要(1)

(今後取り組まなければならない、或いは取組みたいと思われる事項（複数回答可）)

事業所自衛消防隊の災害対応能力の向上	21 (51%)
防災センターの災害対応能力の向上	20 (49%)
事業継続計画（BCP）・事業継続マネジメント（BCM）の検証・改善	14 (34%)
災害対応訓練の内容の見直し	12 (29%)
既存の災害対応マニュアルの検証・改善	11 (27%)
ビルの防火・防災管理および責任体制の検討・整備	10 (24%)
事業所と防災センターの災害対応連携の強化	10 (24%)
地域内（異なる組織間）における災害対応の連携	9 (22%)
その他	0

	統括者	班編成							
1	防火・防災管理者	情報連絡班	初期消火班	避難誘導班	安全防護班	応急救護班			
2	防災管理者		初期消火班	避難誘導班		応急救護班			
3	防火管理者	情報連絡班	初期消火班	避難誘導班					
4	統括		初期消火班	避難誘導班	安全防護班				
5		通報連絡班	初期消火班	避難誘導班	安全防護班	応急救護班			
6	当務者(統括管理)	情報連絡班	消火班	避難誘導班	安全防護班	応急救護班			
7	統括防火管理者	情報連絡班	初期消火班	避難誘導班					
8	防火対象物自衛消防隊長	情報連絡班	初期消火班	避難誘導班	安全防護班	応急救護班			
9	統括防火管理者	情報連絡班	初期消火班	避難誘導班	安全防護班	応急救護班	指揮班		
10	防火防災管理者	情報連絡班	初期消火班	避難誘導班	安全防護班	応急救護班			
11		連絡班	消火班			応急救護班	指揮班	工作班	警護班
12	各階地区隊長	情報連絡班	消火班	避難誘導班	安全防護班				
13	統括防災管理者	情報連絡班	初期消火班	避難誘導班	安全防護班	応急救護班			
14	統括管理者	情報班	初期消火班	避難誘導班	安全防護班	応急救護班			
15	統括防災管理者	情報連絡班	初期消火班	避難誘導班	安全防護班	応急救護班			
16	統括防災管理者	連絡班	消火班	避難誘導班		救護班			
17	統括防火(災)管理者	通報連絡班	初期消火班	避難誘導班		救護班	非常持出班		
18	統括	情報連絡班	初期消火班	避難誘導班	安全防護班	応急救護班			
19	自衛消防隊長	連絡通報班	消火班	避難誘導班	安全防護班	救護班	本部隊	非常持出班	
20	自衛消防地区隊長	連絡通報班	消火班	避難誘導班		応急救護班	非常持出班	シャッター降下班	

※網掛け部分は建物の安全確認を担う可能性があると思われる班を示す。

表 5 第2回セミナーアンケート調査結果概要(2) (事業所等における自衛消防隊の組織編成例)

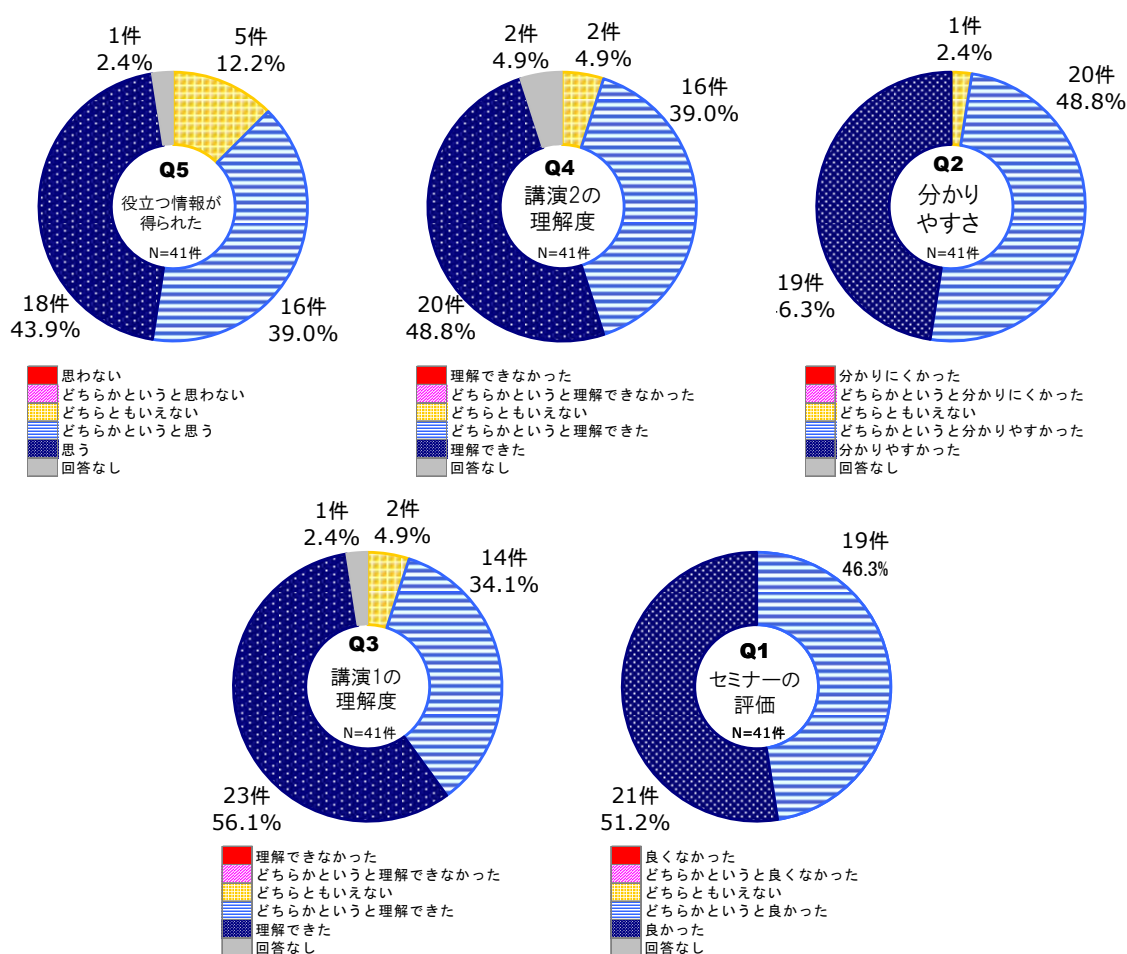


図 8 第2回セミナーアンケート調査結果概要(3)

4.3 第3回セミナーの概要

第3回セミナーでは、複数のテナントが入居する高層オフィスビルを例に、各テナントの自衛消防組織による建物被害確認とビル内での情報集約、さらに建物管理者（防災センター）による被害確認と即時使用性の判定を、図上演習により行った。以下に実施概要および実施状況（図9）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の概要を表6および図10に示す。

- ・ 題目：地震後の建物被害確認と即時使用性判定
- ・ 目的：地震後の建物被害確認と即時使用性判定を行い、効果的な建物被害対応の仕組みについて考える。
- ・ 日時：2013年9月4日（水）13:30～15:30
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス
- ・ 出席者：52名※（演習参加者29名）
※オブザーバー、見学者等を含む全出席者数

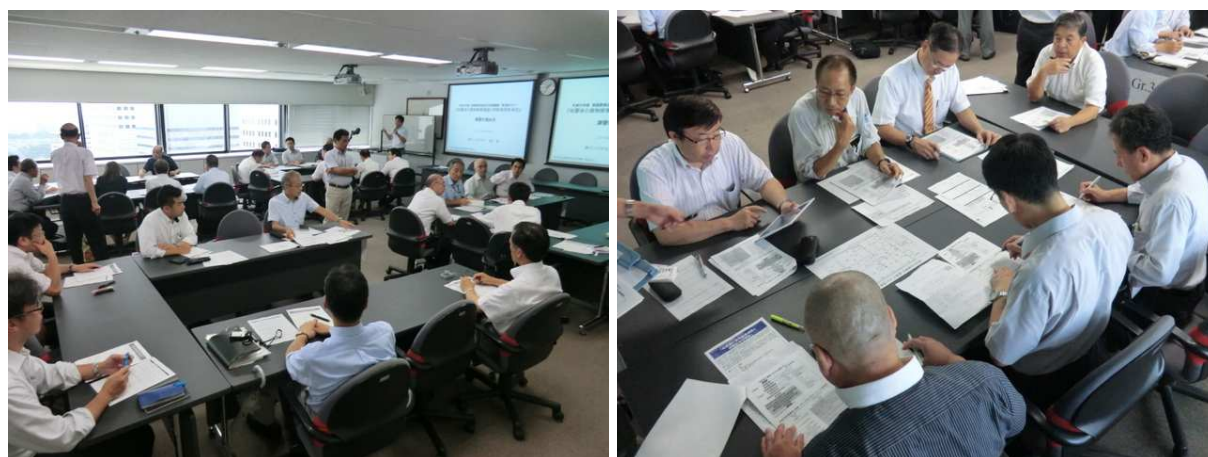
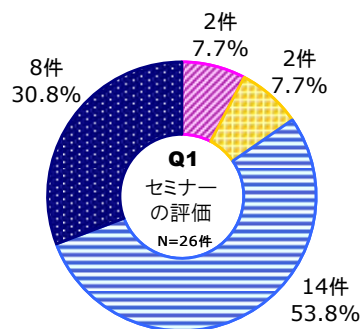


図9 第3回セミナーの実施状況

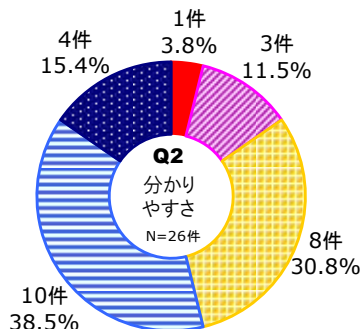
表6 第1回セミナーアンケート調査結果概要(1)

（大規模地震時の被害確認・即時使用性判定等について認識を新たにしたこと）

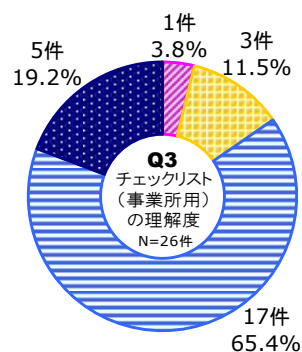
- ・ 建物の被害確認の難しさ。（同種意見4名）
- ・ 更にわかりやすく、客観的な判定ができるようになると良い。
- ・ iPadの有効性。（同種意見2名）
- ・ 当社ビルでも、素人でもわかるチェックリストの精査が必要。
- ・ 各地区隊での確認作業の具体的な量・質を実感できた。即時性判定までの集計が大変。
- ・ 図面を活用した被害状況把握の必要性。（同種意見2名）
- ・ 建物全体だけではなく、部分的な部屋が使用できるか否か。
- ・ 建物管理側として、各階平面図やテナント状況のチェックリストを常備しておく必要性。
- ・ ケガキ、被災度モニタリングの情報があれば、建物の安全はある程度理解出来るのでは？
- ・ 重要性は十分に理解できたが、専門的な知識が無くても判定できるのか。
- ・ 普段からの訓練の必要性。（同種意見2名）
- ・ 判断基準表があると迅速に結論を出せるのではないかな。
- ・ 時間をかけずに判定を出さなければならない。写真の編集をどう処理するかが課題。
- ・ これまで地区隊の口頭報告だけであったが、デジカメによる現場状況把握が必要。
- ・ 構造材と内装材の見分け方。
- ・ 被害程度による安全性の判断がわからない。
- ・ 社内の誰が最終的に判断をするのか決めなければならない。



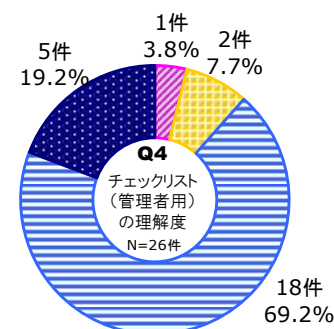
良かった
 どちらかという良かった
 どちらかという良かった
 どちらかという良かった
 良かった
 回答なし



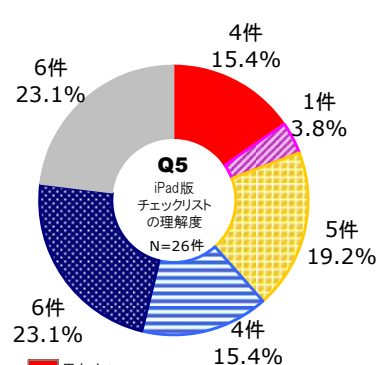
分かりやすかった
 どちらかという分かりやすかった
 どちらかという分かりやすかった
 どちらかという分かりやすかった
 分かりやすかった
 回答なし



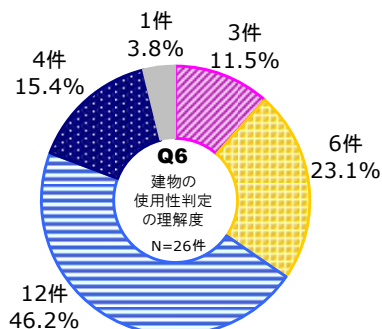
理解できなかった
 どちらかという理解できなかった
 どちらかという理解できなかった
 どちらかという理解できた
 理解できた
 回答なし



理解できなかった
 どちらかという理解できなかった
 どちらかという理解できなかった
 どちらかという理解できた
 理解できた
 回答なし



理解できなかった
 どちらかという理解できなかった
 どちらかという理解できなかった
 どちらかという理解できた
 理解できた
 回答なし



理解できなかった
 どちらかという理解できなかった
 どちらかという理解できなかった
 どちらかという理解できた
 理解できた
 回答なし

図 10 第2回セミナーアンケート調査結果概要(2)

4.4 災害医療講習会の概要

新宿区医師会との共催により、地域の医療従事者を対象に災害医療講習会を開催した。本講習会では、救急医療専門医が災害医療に関して講演を行った後、救急医療専門医と看護師がトリアージ研修会を実施した。以下に実施概要および実施状況（図 11）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の概要を図 12 に示す。

- ・ 題目：災害医療講習会
- ・ 目的：（講演）災害医療について学ぶ。（トリアージ研修会）一次トリアージ（START 式）ができる、二次トリアージを体験する。
- ・ 日時：2013 年 9 月 19 日（木）19:15～21:00
- ・ 会場：新宿区教育センター
- ・ 出席者：59 名



図 11 災害医療講習会の実施状況

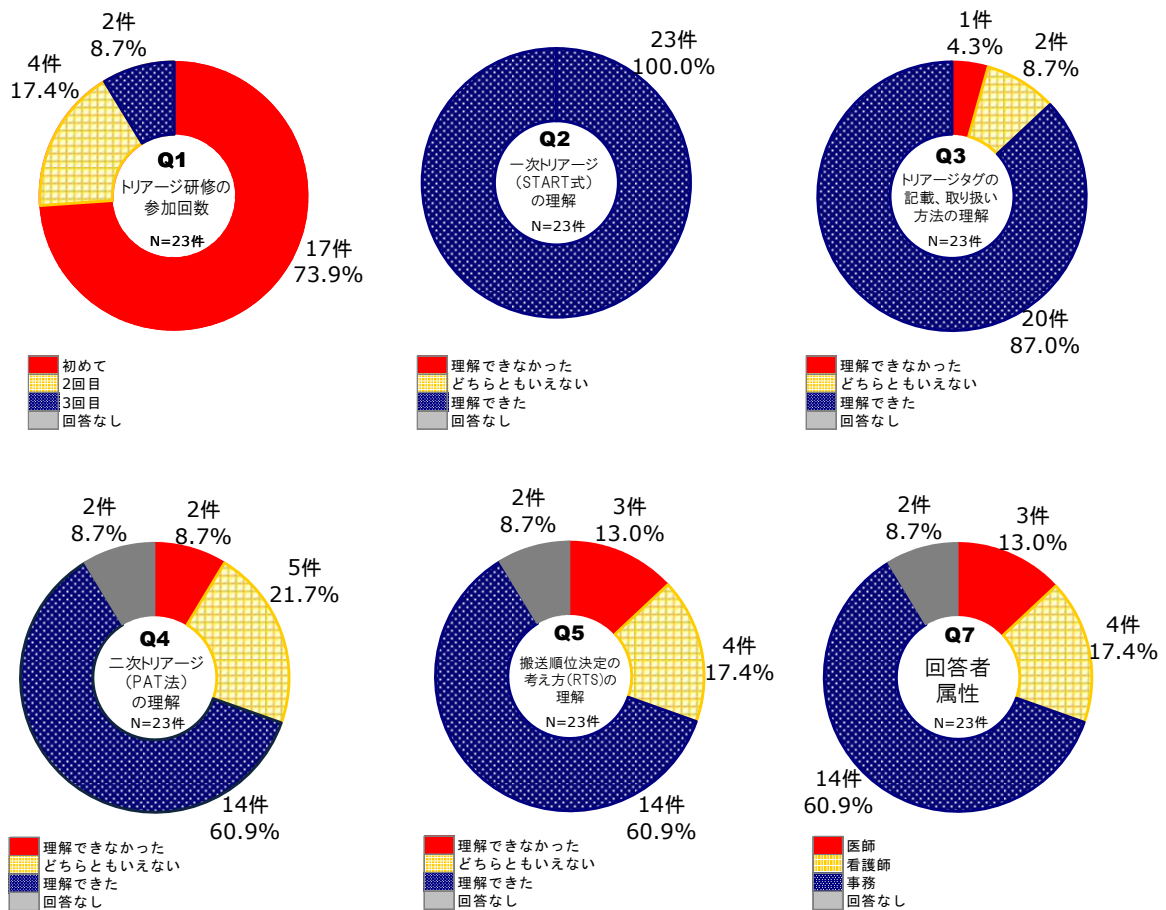


図 12 災害医療講習会アンケート調査結果概要

4.5 応急救護講習会の概要

新宿消防署と日本赤十字社東京都支部を講師として、座学、実技および演習による応急救護講習会を開催した。本講習会では、大規模災害時における応急救護の原則、傷病者への接し方、応急手当、観察記録および搬送の方法など、災害時の応急救護に必要な知識と技能の習得および実践的なトレーニングを目的とした。以下に実施概要および実施状況（図 13）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の概要を図 14 に示す。

- ・ 題目：応急救護講習会
- ・ 目的：事業所での地震災害時の応急救護を座学と実践で学ぶ。
- ・ 日時：2013 年 10 月 9 日（水）9:30～17:30
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス
- ・ 協力：日本赤十字社東京都支部、東京消防庁新宿消防署
- ・ 出席者：38 名



図 13 応急救護講習会の実施状況

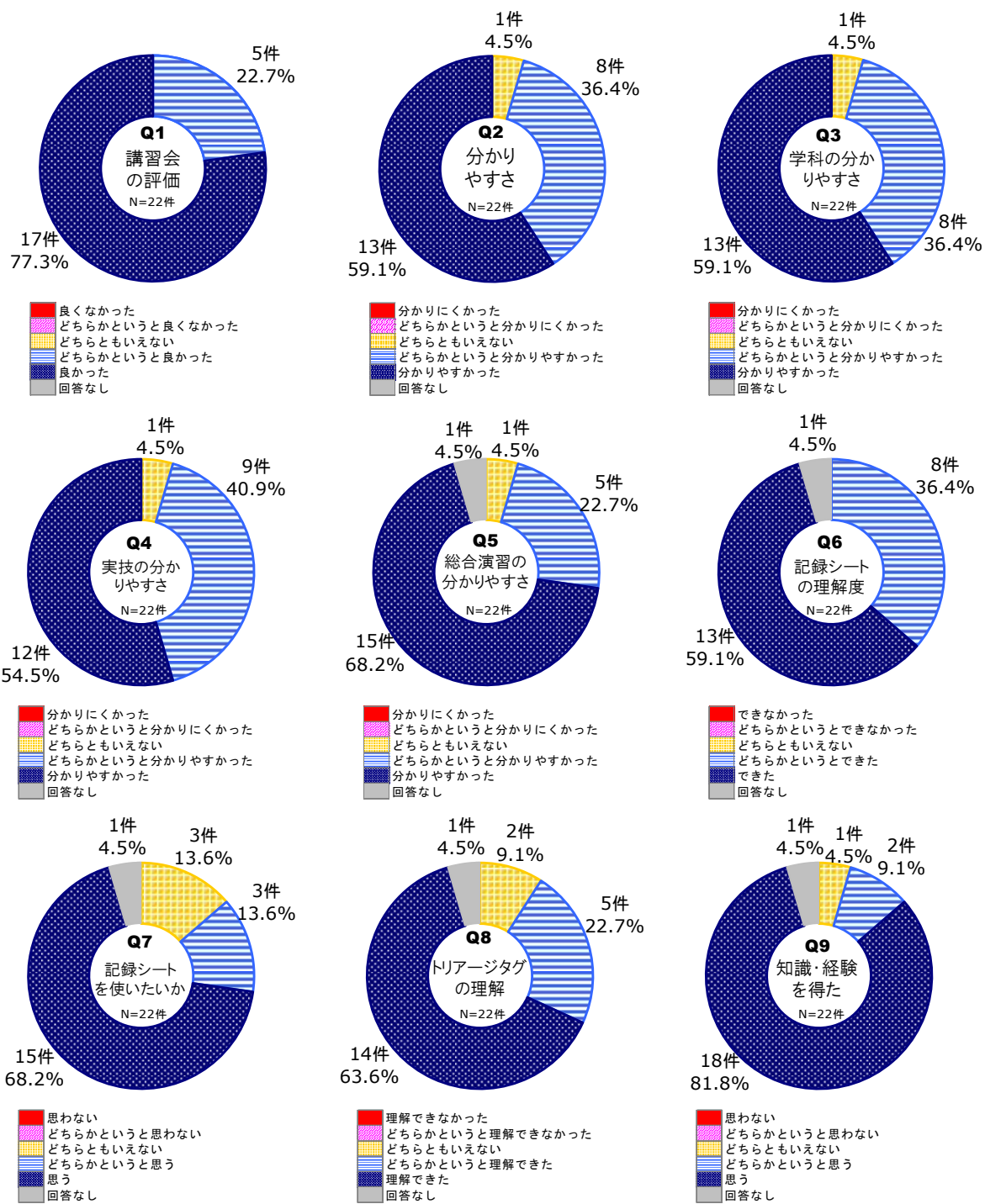


図 14 応急救護講習会アンケート調査結果概要

4.6 新宿防災ウィーク 2013 の概要

11月6日から5日間にわたって、地域の事業所や一般市民を対象に、防災意識啓発の一環として様々な防災イベントを開催した。以下に、実施概要、プログラム（図15）および実施状況（図16）を示す。

- ・名称：新宿防災ウィーク 2013
- ・目的：様々な防災イベントを通じて、地域事業者および一般市民の防災意識を高める。
- ・日時：2013年11月6日（水）～10日（日）
- ・会場：工学院大学新宿キャンパス、他

新宿防災ウィーク 2013

●11月6日(水)

□寺院防災対策セミナー
日時:11月6日(水) 14:20～17:30
会場:損害保険ジャパン 本社ビル 2F 大会議室
定員:200名(先着順)
主催:東京都仏教連合会
後援:(公財)全日本仏教会、(公財)全日本仏教婦人連盟、仏教NGOネットワーク、新宿駅周辺防災対策協議会、(株)損害保険ジャパン

●11月7日(木)

□新宿駅周辺防災対策協議会訓練(西口地域)
日時:11月7日(木) 13:00～17:30
会場:工学院大学新宿校舎、新宿区役所本庁舎・分庁舎、新宿区防災センターなど
主催:新宿駅周辺防災対策協議会
内容:発災後の自助対応から地域での互助対応(建物被害対応訓練、医療救護訓練、防災センター・現地本部訓練)
※起震車による地震体験も同時開催(時間:13:00～15:30 場所:工学院大学新宿校舎1階南側玄関前)

●11月8日(金)

□東京ガス防災供給センター施設見学 日時:11月8日(水)10:00～11:45 場所:東京ガス(株)防災供給センター(港区海岸1-5-20) 集合:9:50 東京ガス(株)本社ビル2階受付前 (JR浜松町駅より徒歩5分)	□新宿西口防災施設見学 日時:11月8日(水)14:00～17:00 場所:新宿中央公園地下変電所、新宿地域冷暖房センター 集合:13:50 新宿中央公園 エキナリー新宿1階ロビー(西新宿2-11-4)
--	--

●11月9日(土)

□子ども防災教室
日時:11月9日(土) 10:00～11:00、11:30～12:30の2回
内容:地震ザブンを使いながら、親子で楽しく防災に必要な知識を学ぶ「子ども防災教室」を開催。
講師:黒田真吾氏(白山工業株式会社)
場所:新宿校舎1階アトリウム
定員:各回、親子10組程度

□地震教室
日時:11月9日(土) 13:30～14:15、14:30～15:15、15:30～16:15の3回
内容:地震ザブンを様々な揺れを体験し、学び、防災意識の向上につなげる。
講師:黒田真吾氏(白山工業株式会社)
場所:新宿校舎1階アトリウム
定員:各回、随時参加可

□女性のための防災教室
日時:11月9日(土) 13:30～16:00(予定)
内容:東日本大震災を経験した女性防災士をお招きして、「女性のための防災教室」を開催。男性の参加も大歓迎。
講師:田中勢子氏(宮城県・仙台市の女性防災士)
場所:新宿校舎A0811教室
定員:150名程度
※起震車による地震体験も同時開催(時間:13:00～15:30 場所:工学院大学新宿校舎1階南側玄関前)

●11月10日(日)

□都市とトレノ第29回全国トレノボジウム2013 地域・教育・医療・防災
日時:11月10日(日) 10:00～17:30 (懇親会 18:00～19:30)
会場:工学院大学 新宿校舎 3F アーバンテックホール
定員:280名(先着順)
共催:日本トレ協会、工学院大学、新宿区、新宿駅周辺防災対策協議会
後援:国土交通省観光庁、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会、一般社団法人日本医療福祉設備協会、一般社団法人日本医療福祉建築協会、公益社団法人国際観光施設協会、医療福祉環境エビデンス研究会、都市環境デザイン会議、一般社団法人日本福祉のまちづくり学会、NPO給排水設備研究会、一般財団法人自然公園財団、全国管工事業協同組合連合会(順不同)
※起震車による地震体験も同時開催(時間:13:00～15:30 場所:工学院大学新宿校舎1階南側玄関前)

●常設展示

□環境・防災情報キオスク	場所:工学院大学新宿校舎エステック広場
□第29回全国トレノボジウム企業展示	場所:工学院大学新宿校舎1階アトリウム
□防災関連企業展示、パネル展示	場所:工学院大学新宿校舎1階アトリウム

新宿駅周辺防災対策協議会

図 15 新宿防災ウィーク2013プログラム



図 16 新宿防災ウィークの実施状況（左上：東京ガス防災供給センター見学(11/8)、右上：地震教室(11/9)、左下：女性のための防災教室(11/9)、右下：第29回全国トイレシンポジウム(11/10)）

4.8 新宿駅周辺防災対策協議会訓練の概要

新宿駅周辺地域における混乱防止と被害軽減に向けて、地域や防災関係機関の連携強化及び自助・共助にもとづく地域防災力の向上を図るため、実践的な訓練を新宿駅東口地域及び西口地域において実施した。以下に訓練の実施概要（表 7、表 8）および実施状況（図 17、図 18）を示す。また、各訓練の参加者を対象に実施したアンケート調査結果の概要を図 19 から図 22 に示す。

- ・ 名称：新宿駅周辺防災対策協議会訓練
- ・ 日時：2013 年 11 月 7 日（水） 西口地域 13:00～17:30 東口地域 13:00～15:30
- ・ 主催：新宿駅周辺防災対策協議会、新宿区
- ・ 実施方針：「新宿モデル」（情報収集伝達、避難・退避誘導支援、医療連携、建物安全確認のしくみづくり）の実現に向けて、新宿駅周辺防災対策協議会を中心に各事業者や施設等における防災対策、地域連携による情報収集伝達や医療救護などの「自助」及び「共助」を基本とする訓練を実施する。
- ・ 訓練想定：東京湾北部を震源とする M7.3 の首都直下地震が発災したと想定する。
- ・ 参加及び協力団体：新宿駅周辺防災対策協議会参加団体及び関係事業所、新宿区医師会、大久保病院、東京医科大学病院、東京女子医科大学病院、慶應義塾大学病院、国立国際医療研究センター病院、日本赤十字社東京都支部、新宿消防署、四谷消防署、新宿警察署、工学院大学、東京都健康プラザ ハイジア、新宿副都心エリア環境改善委員会、危機管理対策機構、鯉沢工学研究所、早稲田大学、宇都宮大学、東京トヨペット(株)、(株)ワイヤ・アンド・ワイヤレス、日東通信(株)（順不同）

表 7 新宿駅西口地域地震防災訓練の実施概要

○事前説明会 日 時：10 月 30 日（水） 15:00～17:00 会 場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟 6 階 A-0652 教室	
○新宿駅西口地域地震防災訓練 日 時：11 月 7 日（木） 13:00～17:30（発災想定時刻 14:00） 会 場：工学院大学 新宿校舎 地下 1 階・1 階アトリウム・2 階 参加者：約 150 名（うち見学者：約 60 名）	
① 傷病者対応訓練	・ 事業所での傷病者発生を想定した、傷病者観察・中軽症者の応急手当等および防災センターとの情報共有訓練 ・ 傷病者の緊急医療救護所（仮）への搬送訓練 ・ 災害拠点病院近隣の緊急医療救護所（仮）を想定した、新宿医師会および近隣診療所の医療従事者によるトリアージ、非医療従事者による情報連絡、応急手当、および搬送訓練
② 建物被害対応訓練	・ 事業所での建物被害確認およびビル内での情報伝達訓練 ・ 防災センターでの被害情報集約および被害調査に基づく建物の即時使用性判定訓練
③ 防災センター訓練	・ 防災センターでの情報集約および災害対応訓練 ・ 西口現地本部へのビル内の災害情報伝達および情報共有訓練
④ 西口現地本部訓練	・ 西口現地本部での情報集約および情報共有訓練 ・ 帰宅困難者誘導訓練 ・ 東口現地本部、新宿区災害対策本部等との防災無線および FWA 無線による通信訓練



図 17 新宿駅西口地域地震防災訓練の実施状況（左上・右上：傷病者対応訓練、左中央：建物被害対応訓練、右中央：防災センター訓練、左下：西口現地本部訓練、右下：帰宅困難者誘導訓練）

表 8 新宿駅東口地域地震防災訓練の実施概要

○事前訓練 日 時：10 月 31 日（木）13:15～16:00 会 場：新宿区役所第一分庁舎 7 階研修室 参加者：約 30 名	
避難誘導図上演習訓練	訓練事前説明会とあわせて、避難誘導図上演習訓練・東口現地本部立ち上げ手順及び東口現地本部資器材保管場所の確認を実施。
○新宿駅東口地域地震防災訓練 日 時：11 月 7 日（木）13:00～15:30（発災想定時刻 13:00） 会 場：工学院大学 新宿校舎 地下 1 階・1 階アトリウム・2 階 参加者：約 100 名	
① 東口現地本部情報共有訓練（実働訓練）	・東口現地本部（想定）の立ち上げ ・情報収集伝達 ・情報共有（西口現地本部、新宿区災害対策本部）
② 負傷者対応訓練（実働訓練）	・アクションカードを用いての災害医療への協力（負傷者発生現場、医師会、大久保病院） ・模擬傷病者発生・傷病者の選別・搬送・トリアージ ・（重症者）医療処置、（軽傷者）応急手当



図 18 新宿駅東口地域地震防災訓練の実施状況（左：大型ビジョンによる情報発信、右：負傷者対応訓練）

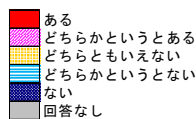
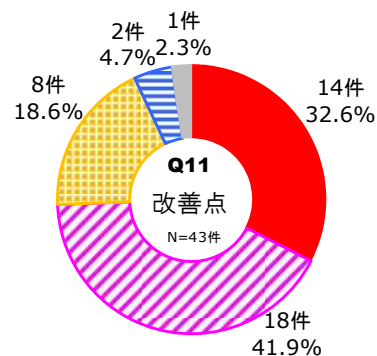
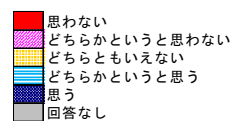
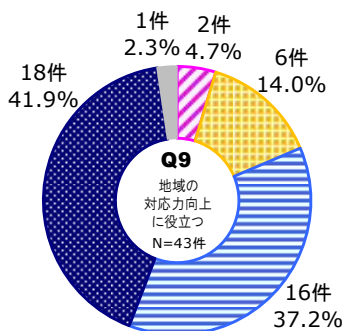
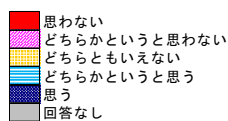
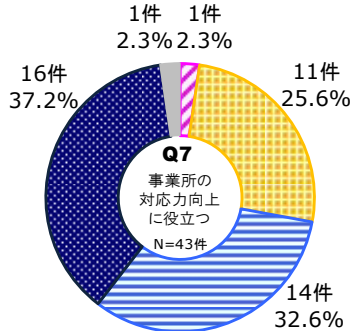
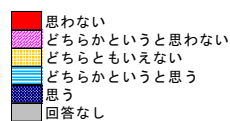
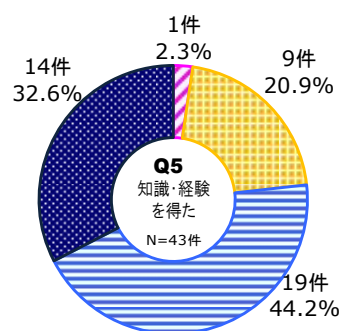
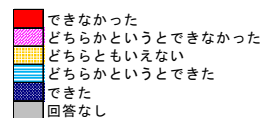
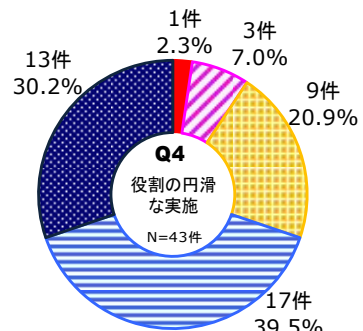
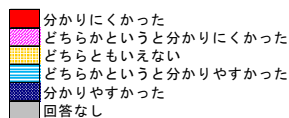
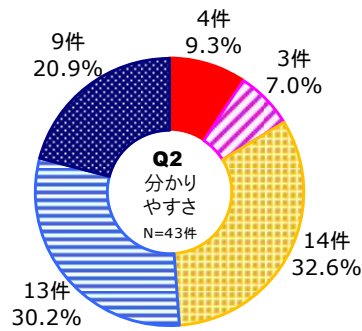
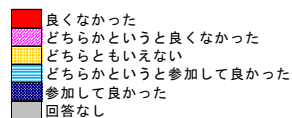
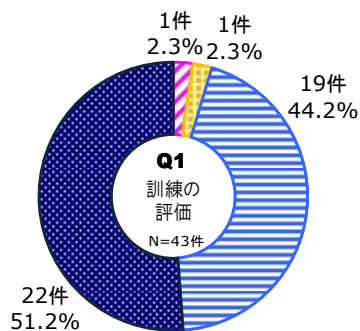


図 19 応急救護訓練アンケート調査結果概要

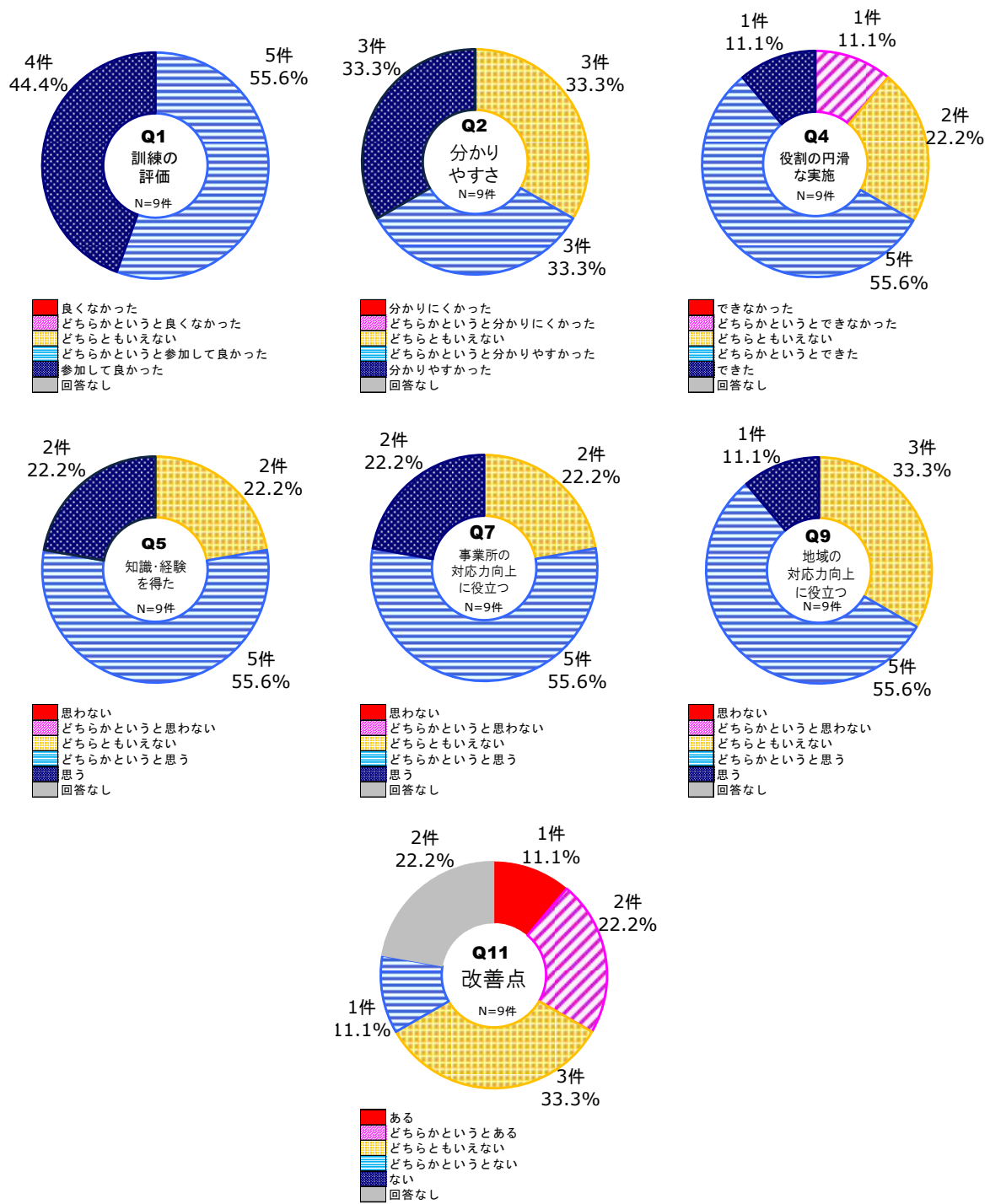


図 20 建物被害対応訓練アンケート調査結果概要

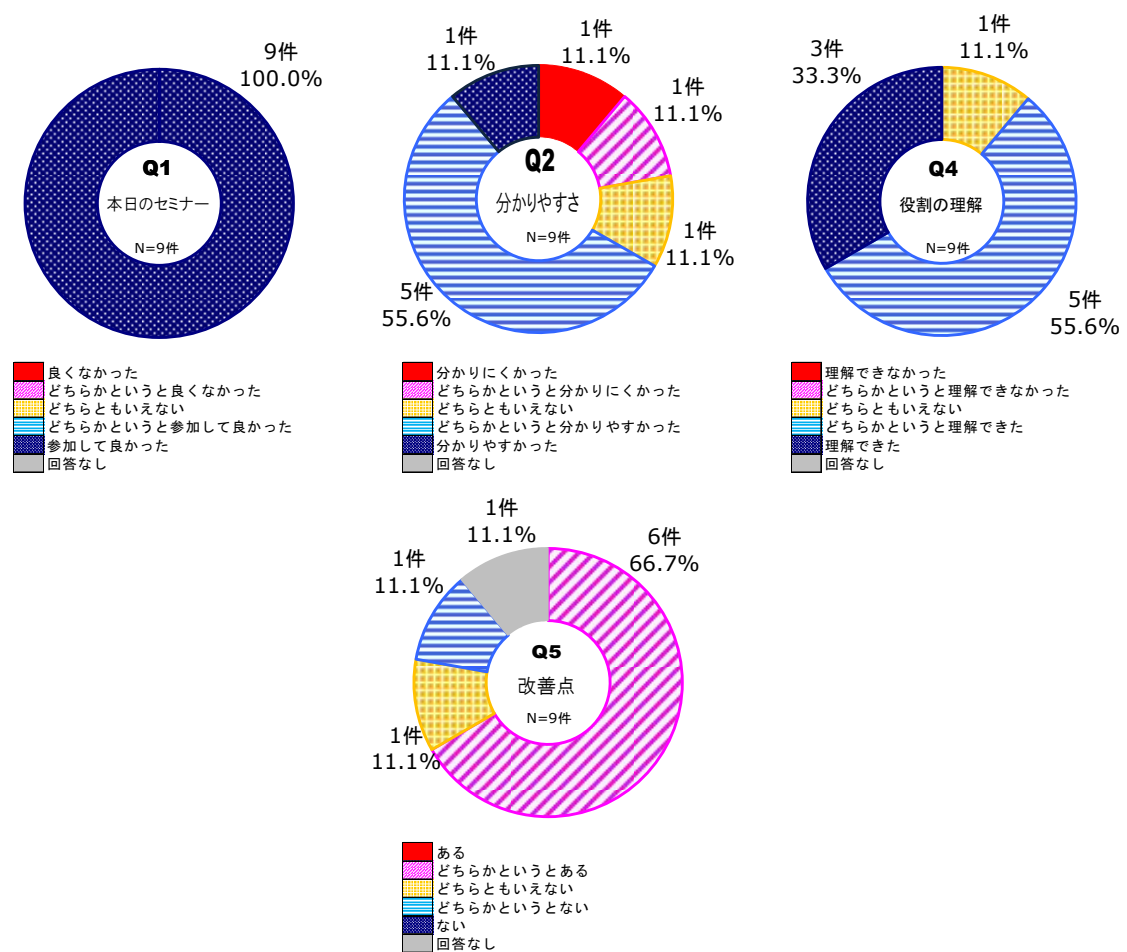


図 21 防災センター訓練アンケート調査結果概要

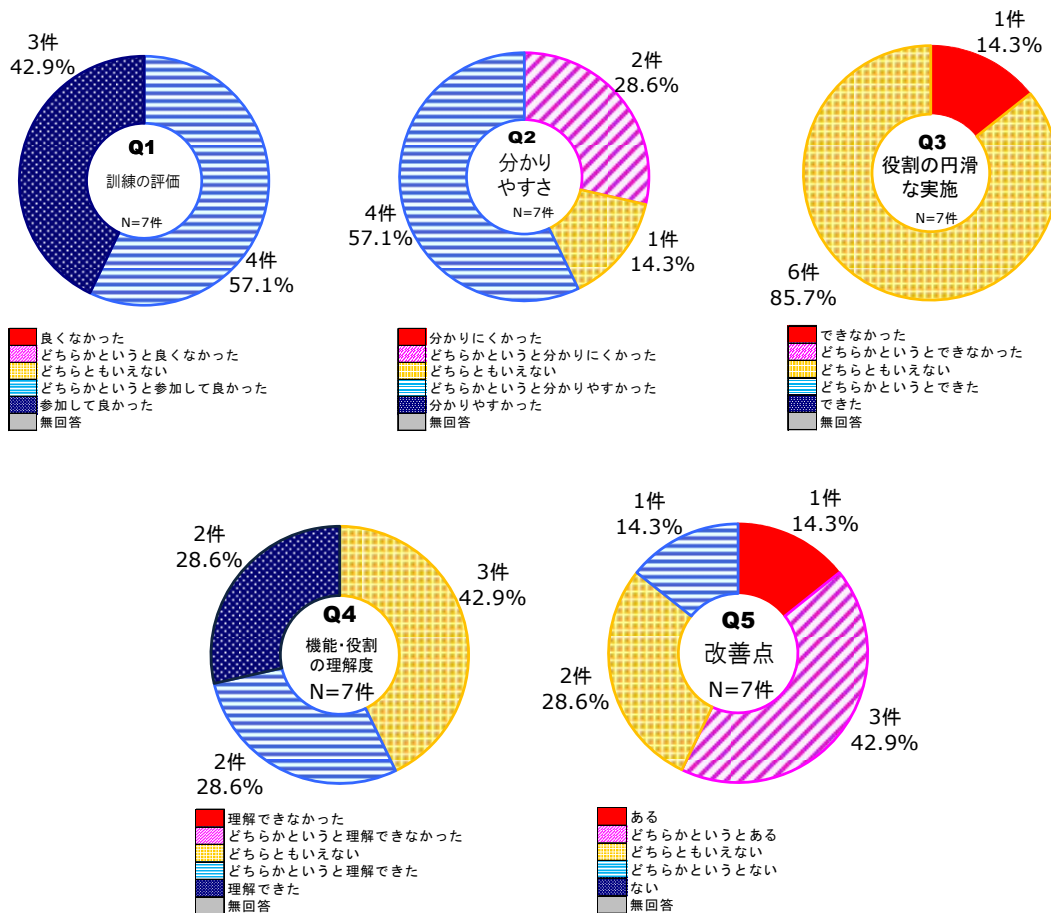


図 22 西口現地本部訓練アンケート調査結果概要

4.9 第4回セミナーの概要

第4回セミナーでは、新宿駅西口地域地震防災訓練に重点をおき、平成25年度の新宿駅周辺防災対策協議会訓練の実施内容を振り返り、訓練関係者や参加・見学者等による意見交換を行った。以下に実施概要および実施状況（図23）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の概要を表9、表10および図24に示す。

- ・ 題目：平成25年度協議会訓練を振り返る
- ・ 目的：平成25年度の訓練実施内容を振り返り、その成果と課題を検証する。
- ・ 日時：2014年1月16日（木）13:30～16:30
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス
- ・ 出席者：55名



図 23 第4回セミナーの実施状況

表 9 第4回セミナーアンケート調査結果概要(1)（西口地域訓練の内容を振り返り良かった点）

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ <u>実践型</u>の訓練でレベルの高さ。・ <u>実際に実施</u>し色々な疑問点が分かったこと。・ 応急救護班員が、外観上ではあるが、重病人を優先に救護に当たった点は良かった。・ 落ちついて行動していた。・ 各訓練がオープンで見学フリーな状態はよかった。・ 医療従事者と非医療従事者が<u>合同</u>で訓練する機会。・ 目的は非常に共感でき、訓練後に振り返りや評価を行う事は良い。・ 負傷者多数発生時対応の基本的事項が理解できた。・ 初めて会った人と<u>協力して訓練</u>できた点（コミュニケーション）。防災に対して意識の高い人と意見交換ができた点。・ 応急救護の統制がとれていたと思う。・ 役割分担同士の<u>連携</u>も良く取れていたと思う。・ 現状で何が出来ていないかが分かった。・ 当ビルでの態勢がどうあるべきか、防火・防災対応出来る社員が具体的に何を担当すべきか、イメージだけは持つことが出来た。・ 被災時を想定して訓練を繰り返し実施し、課題解決していくことは重要。・ <u>実動訓練</u>が良い。身体で体験することは非常時に生かされる。 |
|---|

表 10 第4回セミナーアンケート調査結果概要(2) (西口地域訓練の内容を振り返り改善すべき点)

- 実践型の訓練でレベルの高さ。
- 実際に実施し色々な疑問点が分かったこと。
- 応急救護班員が、外観上ではあるが、重病人を優先に救護に当たった点は良かった。
- 落ちついて行動していた。
- 各訓練がオープンで見学フリーな状態はよかった。
- 医療従事者と非医療従事者が合同で訓練する機会。
- 目的は非常に共感でき、訓練後に振り返りや評価を行う事は良い。
- 負傷者多数発生時対応の基本的事項が理解できた。
- 初めて会った人と協力して訓練できた点 (コミュニケーション)。防災に対して意識の高い人と意見交換ができた点。
- 応急救護の統制がとれていたと思う。
- 役割分担同士の連携も良く取れていたと思う。
- 現状で何が出来ていないかが分かった。
- 当ビルでの態勢がどうあるべきか、防火・防災対応出来る社員が具体的に何を担当すべきか、イメージだけは持つことが出来た。
- 被災時を想定して訓練を繰り返し実施し、課題解決していくことは重要。
- 実動訓練が良い。身体で体験することは非常時に生かされる。

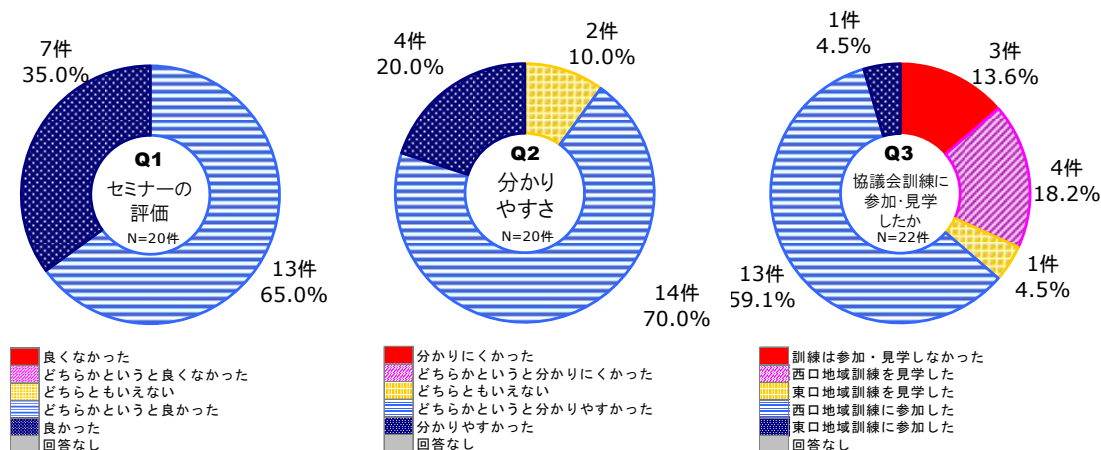


図 24 第4回セミナーアンケート調査結果概要(3)

4.10 第5回セミナーの概要

第5回セミナーでは、平成25年度の新宿駅周辺防災対策協議会の主な活動を振り返り、次年度の協議会活動に向けた意見交換を行った。また、次年度の協議会活動の参考とするため、傷病者対応訓練や協議会活動と連携した研究や、地域企業の取組みの事例、新宿駅周辺地域都市再生安全確保計画の進捗状況についても報告があった。以下に実施概要および実施状況(図25)を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の概要を表11、表12、図26および図27を示す。

- ・ 題目：次年度の協議会活動に向けて
- ・ 目的：平成25年度の協議会活動を振り返り、次年度の活動に向けて話し合う。
- ・ 日時：2014年2月26日(水) 14:30～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス
- ・ 出席者：75名



図 25 第5回セミナーの実施状況

表 11 第5回セミナーアンケート調査結果概要(1) (協議会活動を振り返り良かった点)

- ・ 情報発信・共有役として非常に良い取組み。
- ・ 調査・研究と訓練が非常にきちんに行なわれていると感じた。
- ・ 実施に対して検証を行い課題認識ができていた点。
- ・ 訓練やセミナーに参加し知識や問題意識が向上。自助・共助中心で実務に役立つ内容。
- ・ すべての項目のものが参考になった。
- ・ 応急手当訓練。
- ・ 各種セミナーは参考になった。
- ・ 災害に対する訓練の取組み。
- ・ 災害医療講習会など、訓練。
- ・ 実践的な訓練も行なわれており、データや課題も蓄積されていて非常に良いと感じた。
- ・ 応急救護講習会と総合防災訓練の実施。
- ・ 訓練のレベルが高くなり、非常に実践的。医療従事者との連携も非常にレベルが高まった。
- ・ 年間を通じて訓練を繰り返すことは重要で、生かされ改善しつつある。
- ・ セミナー。全て参加したが防災に関する幅広い知識を得ることができた。
- ・ 継続的に訓練等を実施されていること。
- ・ 活動時期、回数、内容は概ね良い。
- ・ 総会においての基調講演、指揮調整、連携、情報処理について BCP に取り入れ活用が図られた。応急救護講習会は、身近な対策として必要性、重要性を再認識した。

表 12 第5回セミナーアンケート調査結果概要(2) (協議会活動を振り返り改善すべき点)

- 住民が危険（リスク）を感じる心の共有。
- リーダーでなくメンバーを増やすこと。
- 中小企業が新宿モデルの対象から漏れているのではないかと心配になった。
- 課題解決に向けた取り組み。
- 枠組みが決まっているようで決まっていない。具体性を持てる内容となると良い。
- 建物安全判定机上訓練。安全判定の訓練であるのに組織体制に力点が置かれていた。
- 訓練でパニックを引き起こした状態が練習できないのではないかな？
- 地域の対策として帰宅困難者対応の充実。各施設が連携した訓練。参加者が交流できる取り組み。
- 帰宅困難者対策。特に地下街の存在は避けて通れなくなっている。
- 訓練における現状分析が不十分。IT 機器を活用するのは良いが、容量なり安定度が甘い。
- なかなか物事が進まない。個社中心であること。共助として情報連携なのか、防災減災なのか、災害時医療なのか、備蓄なのか、新宿モデルの中に1つ大きな核が欲しい。
- 自助はそれぞれのビル（会社）で強化されているが、共助になると参加できる人が中心となっているので、役割（任務）分担をビル（組織）単位で定めるようにしていくことが重要。

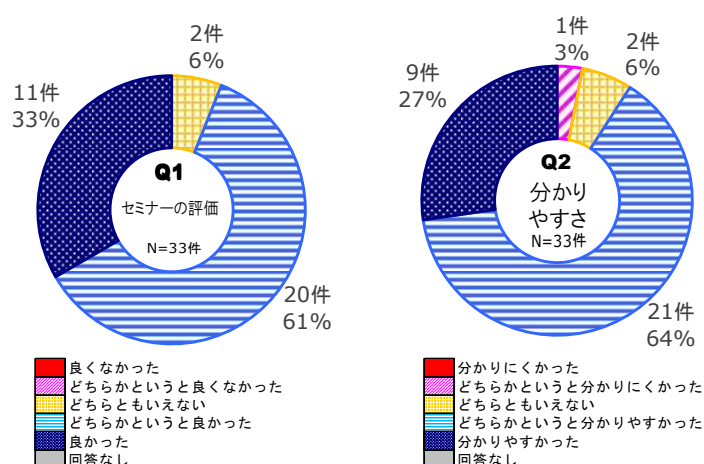


図 26 第5回セミナーアンケート調査結果概要(3)

当社の自衛消防隊活動について～当社自衛消防隊長として～	25 (76%)
施設の災害対応～問題提起・今の取り組みで大丈夫？～	24 (73%)
都市の脆弱性が引き起こす災害の軽減化プロジェクトの紹介	14 (42%)
新宿駅周辺地域都市再生安全確保計画について	13 (39%)
災害医療救護訓練の科学的解析～動線・会話分析～	11 (33%)
平成25年度新宿駅周辺防災対策協議会活動の振り返り	10 (30%)
意見交換	4 (12%)
その他	1 (3%)

図 27 第5回セミナーアンケート調査結果概要(4) (Q3の集計結果)

(本日のセミナーで有用な情報が得られた項目 (複数回答可))

第5章 おわりに

本報告書では、平成 25 年度の新宿駅周辺防災対策協議会活動として、新宿駅周辺防災対策協議会総会およびセミナー・講習会・防災イベントの概要、参加者に対するアンケート調査結果を報告した。次年度は、実践した教育訓練プログラムの検証とともに、標準化に向けた取り組みを進める予定である。

参考文献

- [1] Yoe Masuzawa, Yoshiaki Hisada, Masahiro Murakami, Jun Shindo, Masamitsu Miyamura, Hitoshi Suwa, Satoshi Tanaka, Kaoru Mizukoshi and Yosuke Nakajima: Practice on an Education and Training Program to Development of Response Literacy to Earthquake Disaster in a Central Business District in Japan, Journal of Disaster Research, Vol.9 No.2, pp. 216-236, Mar. 2014.
- [2] 工学院大学, 新宿駅周辺防災対策協議会, “新宿駅周辺エリアを対象とした中心市街地における災害対応能力向上のための教育訓練プログラムの開発 報告書”, Mar. 2014.
- [3] 新宿駅周辺防災対策協議会, “平成 25 年度新宿駅西口地域地震防災訓練報告書”, Mar. 2014.